

【巻頭言】

新型コロナウイルスを経験して感じたこと

企画委員 杉山淳子(短12回生)

2019年に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスは、あれよあれよという間に世界へ広がり、日本にも蔓延していきました。それからの約2年間、常に感染症対策というものを意識した生活を強いられております。この原稿を書いている今現在、第7波と思われる波が押し寄せてきており、私が勤務している滋賀医科大学医学部附属病院の放射線治療部門でも、新型コロナウイルス感染症が流行してから初めて、感染した患者さんの放射線治療を行うこととなりました。個人的な感想は、この2年間、よくPPE未経験でいられたなあ…です。診断部門では患者さんを受け入れていましたが、放射線治療部門では初体験でした。滋賀県は、都会に比べて患者さんの数が少ないことや患者さんご自身が、日常生活において非常に注意深く過ごしておられたことで助かっていたのかなと思います。また我々放射線業務従事者も、全ての飲み会を我慢し、マスクとゴーグルで診療に当たり…と頑張ってきました。が、第7波の勢いにはさすがに押され気味になっております。全国的にも感染者が今まで以上の勢いで増加しております。早く収束し、友人と気兼ねなく遊べるようになることを願うばかりです。



私が就職したばかりの頃は、いえ、新型コロナウイルスの名前を初めて報道で聞いた時でさえ、この感染症が世界中に蔓延することなど想像できませんでしたし、「パンデミック」なんて言葉は映画の世界の物でした。しかし、世界中が新型コロナウイルス感染症に振り回され、生活様式まで一変してしまう影響力を実際に体感し、医療が現在ほど発達していなかった頃は今以上に恐ろしかっただろうことを思うと、医療をここまで発展させてきた祖先に改めて感謝の思いを抱きました。同時に、過去の歴史から学ぶ重要性を改めて再認識することになりました。

京都医療科学大学は、日本で初めての診療放射線技師養成校で、創立は1927年(昭和2年)です。そして学友会はその翌年の1928年(昭和3年)に発足されました。この、1928年がどんな年だったのか調べてみますと、1925年(大正14年)に公布された普通選挙法に基づく最初の総選挙が行われた年で、25歳以上の成年男性が初めて選挙に参加した年だそうです。因みに、女性が選挙権を得るのは、1946年です。大日本帝国憲法は1947年まで施行され、その後、日本国憲法に改正されました。我々診療放射線技師に目を向けてみますと、診療X線技師法が制定されるのが1951年、診療放射線技師となったのが1968年、日本に初めてCTが導入されたのが1975年…と続きます。そして、医療技術の発展に伴い、我々診療放射線技師はその職域を広げていきました。そんな時代の流れに並行して、京都医療科学大学は、世界情勢の変化や医療技術の進歩に適応し、発展し、その歴史と知恵を受け継いで現在に至っております。「変化を恐れていては進歩はない」と、ある先輩に教えられましたが、母校の歴史を眺めてみますと、まさにその通りであると痛感します。

現在、私は、学友会理事に就任して10年近く経ちました。あまりお役に立てた記憶がなく、心苦しい限りですが、先輩方が築いてこられた母校と学友会の歴史を絶やすことなく次代へ繋げられるように、微力ながら携わっていきたいと思います。

学友会会員の皆様も、是非ともご自身の勤務地にある学友会支部総会や学友会総会に足を運んでください。先輩や後輩との交流は、きっと楽しい時間になりますし、その繋がりが学友会をより発展していく一助になると思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします

以上